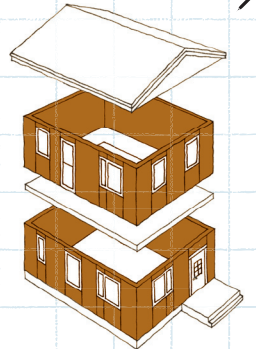


住まいの性能は、誇るためのものではありません。
真に快適な暮らしを実現するためにあるのです。
大切なのは、数値を単純に高めることなく、
快適のための性能をバランス良く考える発想です。

① 壁パネル

性能にスキのないパネル。



部材の製造精度が高ければこそ、
家は最大限の性能を発揮できます。

スウェーデンハウスは、床・壁・屋根の六面体を強固に緊結して一体化させたモノボックス構造です。モノボックス構造を構成する壁パネルは、規格に則った品質管理が行き届く自社工場で生産しています。

高性能の家を全ての人に等しく——このスウェーデンハウスの想いを実現するためには、二つの部材・部品が品質にばらつきなく性能を正しく発揮できることが大前提です。今回は壁パネルについて紹介します。

まず断面積が2×4材(38mm×89mm)の16倍もある枠材(45mm×120mm)で枠組みをつくります。そして屋外側に構造用合板、屋内側に防湿フィルムとハードボードを貼り、内部に枠材と同じ厚さ(120mm)の断熱材グラスウールを隙間なく充填します。これらの工程は機械化されているため、偏りなく精度を安定させることができます。

強度・断熱・気密といった快適性能を、バランス良く、多角的に見つめる高精度なパネルづくり。自社工場だからこそ追求できる高性能へのこだわりが、スウェーデンハウスの快適性を支えているのです。

高断熱のために

自立できるほど“高密度で腰のある”断熱材を隙間なく充填することで断熱性能の低下・欠損の原因となる空隙や隙間ができず、長期にわたり住まいの断熱性能を維持することができます。また、これらの工程の機械化が可能なのはパネルが規格化されているからでもあります。

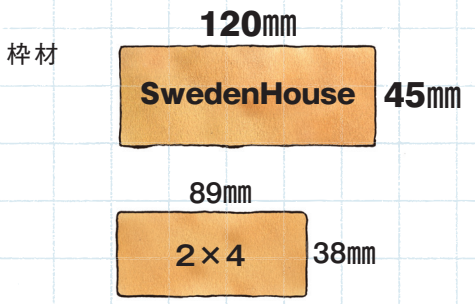


高气密のために

厚さ0.2mmのスウェーデン製防湿フィルムをパネルの室内側に貼り、その上からハードボードで固定。日本で一般的に用いられる0.1mmのものに比べ、明らかに耐久性が異なります。実はスウェーデンは世界の中で、住宅防湿・気密フィルムの研究先進国。JIS(日本工業規格)も規定制定にあたって参考にした、スウェーデン王立検査研究所の認可を受けた防湿フィルムを、スウェーデンハウスでは創業時から使用しています。

高強度のために

壁が安定した強度を得るためには、釘を等間隔で正確に打ち込むことがとても大切です。スウェーデンハウスのパネルは10cmに1本の間隔で、自動釘打ち機によって正確に止めつけます。このパネルは壁倍率(壁の強度を表す基準)について国土交通大臣認定を独自に取得し、その強さが認められています。



構造用合板
厚み 9mm

断熱材
(グラスウール)
厚み 120mm
(24kg/m³)

防湿フィルム
厚み 0.2mm

枠材 断面寸法
120mm × 45mm

ハードボード
厚み 9.2mm

